

音楽科

評価の観点

○音楽への関心・意欲・態度

- ・学習内容・学習活動に興味・関心をもっているかどうか。
- ・学習に主体的に取り組もうとする意欲や態度はあるか。
- ・積極的に技能を高めようとする姿勢があるか。

○音楽表現の創意工夫

- ・どのように音楽を表現するのかについて、自分なりの思いや意図をもつことができているか。
- ・表現活動を通して、音楽的な要素（音程、メロディー、フレーズ、リズム、ハーモニー、強弱、速度 等）を知識として理解し、感覚として受けとめることができているか。
- ・この観点は、必ずしも音楽表現を伴ってなくてもよい。

○音楽表現の技能

- ・実際に歌ったり、演奏したりする様子から、音楽表現に必要な技能を身に付けることができているか。
- ・実際に音楽を表現することができるか。

※技能の習得には時間がかかるため、学習の最後に評価をしています。

○鑑賞の能力

- ・音楽鑑賞の最終目標は、作品や演奏を「批評できる」ことです。
- ・音楽鑑賞を通して、音楽的な要素を知識として理解し、その特質や雰囲気を感じて受けとめることができているか。
- ・上記の理解、感受を踏まえ、作品や演奏を解釈したり、価値を考えたりして鑑賞できているか。
- ・1年生では、「言葉で説明」、2・3年生では、「根拠をもって批評する」ができているか。

<評価方法>

- ・教師による観察。
- ・ワークシート等の記述。
- ・演奏やそれに至る過程。
- ・実技テスト（クラス全員で共有できるようにする。）

学習の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する**感性**を豊かにし、音楽活動の**基礎的な能力**を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

学習の特徴

音楽は実技教科です。

座学とは違い、体全体を使って積極的に授業に参加し、表現の幅を広げていきます。また、技能は一朝一夕に身に付くものではなく、小学校からの積み重ねと、今後3年間の地道な努力が必要です。受け身ではなく、自ら高めようとする姿勢が重要です。

勉強の仕方

授業では、表現活動に120%の力を注いでください。毎時間自分の限界に挑戦することにより、技能は身に付いていきます。

他教科同様、授業だけで定着するということはありません。自分なりに、自分たちなりに正しく繰り返す必要があります。その1つの例が、合唱コンクールです。各自に練習用パート別音源（CD）を配布し、各自個人練習、パート練習、クラス練習等に活用してもらいます。

また、授業で学習している楽曲や音楽文化について、授業以外でも図書やインターネットを活用し、情報収集に努めてください。現在は、様々な音楽を手軽に視聴することが可能です。異なる演奏形態、異なる演奏者、パート別音源等、週に1時間しかない音楽の授業を補い、より豊かなものにする努力をしてください。



3年・年間計画		
1 学 期	<p>○日本の名曲を味わおう。 「花」(歌) 「荒城の月」(歌)</p> <p>○音列を使って音楽をつくろう。 「音列による作品づくり」(創作)</p> <p>○混声合唱の響きを味わおう。 「春風の中で」(歌) 「全体合唱曲」(歌) 「クラスで選択した合唱曲」(歌)</p>	1 2
2 学 期	<p>○情景と音楽を結び付けて味わおう。 「ブルタバ」(鑑賞)</p> <p>○様々なジャンルの音楽に親しもう。 「世界のポピュラーソング」(歌)</p> <p>○日本の伝統音楽の味わい。 「越天楽」(鑑賞・器楽)</p>	1 4
3 学 期	<p>○楽器アンサンブルを楽しもう。 「涙そうそう」(器楽)</p> <p>○気持ちを込めて表現しよう。 「校歌」(歌) 国歌「君が代」(歌) 「大地讃頌」(歌) 「旅立ちの日に」(歌)</p>	9